

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	警務課長 村上 紀明	電話番号	0852-26-0110(代)
----------	------------	------	-----------------

事務事業の名称	治安基盤強化事業		
目的	(1) 対象	県民	
	(2) 意図	警察の組織的・物的及び制度的基盤を整備し、精強な第一線警察を構築することにより、県民の安全で安心な生活を確保する。	
事業概要	治安対策を推進するためには、警察組織の人的・物的及び制度的基盤整備を図る必要があることから、優秀な人材を確保し、教養の充実を図るとともに、装備資機材の整備や業務の見直し・効率化を徹底し、治安基盤の強化を推進する。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	犯罪率	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
	式・定義	県人口千人当たりの刑法犯認知件数	目標値		6.30	6.20	6.20	6.10	件/千人
			実績値	6.30	6.40	6.20	6.84		
			達成率		98.40	100.00	90.64	%	
	指標名		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
	式・定義		目標値		0.00	0.00			
実績値			0.00	0.00	0.00				
達成率				0.00	0.00		%		

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	1,780,763	3,924,554
うち一般財源 (千円)	1,464,553	2,755,018

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

<成果参考指標関係>
 ○ 平成26年中の刑法犯認知件数は4,772件（前年比+393件）。犯罪率は6.84（全国16位(良い順)）
 ○ 平成27年6月末の認知件数は1,665件（前年同月比-539件）。年間の認知件数がピークであった平成15年以降、6月末の件数としては最少
 <事業の現状>
 ○ 優秀な人材確保～平成27年の警察官採用試験（大学卒：来春採用）の応募者は288人（前年比+60人）
 ○ 現場執行力の強化～平成27年6月末における各種事件事故を想定した現場対応訓練の回数は125回（前年同月比+84回）
 ○ 装備資機材の整備～地域警察官の耐刃防護衣等を整備計画に基づき順次更新中
 ○ 組織体制及び警察施設の整備～平成27年3月に「外事情報室」を新設したほか、8駐在所を統廃合して1 交番を新設
 ○ 業務の合理化・効率化～出席者が重複する別会議を合同開催するなど、業務の合理化・効率化を推進中

6. 成果があったこと（改善されたこと）

○ 優秀な人材確保～月間を設けるなどして組織をあげた募集活動を展開し、昨年比60人増の応募を得た。
 ○ 現場執行力の強化～各種事件事故を想定した現場対応訓練の反復実施により、現場執行力の強化を図った。
 ○ 装備資機材の整備～耐刃防護衣等の計画的整備により、警察官の職務執行における安全性の向上を図った。
 ○ 組織体制及び警察施設の整備～「外事情報室」の新設により、国際的視野に立った業務の強化を図った。また、交番・駐在所の適正配置により、初動警察活動の強化等を図った。
 ○ 業務の合理化・効率化～業務の見直しを行い、合理化・効率化を推進して第一線警察職員の業務負担の軽減を図った。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」
 ○ 刑法犯認知件数は減少傾向にあるものの、治安情勢は予断を許さない状況にある。
 ○ 人的基盤の整備に關し、警察官志望者が減少して採用試験の競争倍率が低下、合格者の採用辞退等、優秀な人材確保が困難となっている。また、若手警察官の増加により、現場執行力の低下が懸念される。

②困っている状況が発生している「原因」
 ○ 治安情勢が予断を許さない原因として、人身安全関連事案や特殊詐欺被害の続発、更には急速に発展する情報化社会の中で悪質巧妙化するサイバー犯罪に対する脅威や犯罪のグローバル化の進展等が挙げられる。
 ○ 警察官志望者が減少している原因として、少子高齢化に伴う就職適齢人口の減少、民間企業の採用活発化等が挙げられる。若手警察官の増加原因は、大量退職・大量採用の継続である。

③原因を解消するための「課題」
 ○ 治安情勢への対応に關しては、今後も警察力の充実強化に向けた人的・物的及び制度的基盤の整備を推進していく必要がある。
 ○ 人的基盤の整備に關しては、警察官の魅力・やりがい等に関する効果的な情報発信等を行い、優秀な人材を確保していく必要がある。また、増加する若手警察官に対しては、各種事件事故を想定した現場対応訓練を継続実施し、現場執行力を強化していく必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

○ 優秀な人材の確保～就職説明会参加者等に対するメールマガジンの発信、リクルーター制度の効果的活用、警察学校等におけるオープンキャンパスの充実など、組織をあげた募集活動を継続し、更なる応募者の獲得に努めるほか、合格者に対する継続的な連絡等により、採用辞退防止を図る。
 ○ 現場執行力の強化～各種事件事故を想定したロールプレイング形式による現場対応訓練を継続実施し、第一線警察官の現場執行力の強化を図る。
 ○ 装備資機材の整備～多様化する現場に有効な装備資機材の新規整備を推進する。
 ○ 組織体制及び警察施設の整備～変化する治安情勢に対応するため、組織体制について不断の見直しを図る。交番・駐在所の適正配置及び老朽・狭隘化した施設の整備を推進する。
 ○ 業務の合理化・効率化～各種情報システムの整備等を通じた業務の合理化・効率化を推進する。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）